

わかことワカルの少年法

番外編

「体感治安」の問題について

クイズ

少年による殺人事件の件数を表しているのは
と、さてどちらでしょう？

2004年	195件	62件
2003年	261件	96件
2002年	143件	83件
2001年	279件	109件
2000年	778件	105件
1999年	174件	111件
1998年	390件	117件
1997年	147件	75件
1996年	14件	97件
1995年	6件	80件
1994年	12件	77件
1993年	6件	75件
1992年	8件	82件
1991年	12件	77件
1990年	19件	71件

ヒント
少年法が改正された年

ヒント
神戸児童殺傷事件が起きた年

正解は…

少年事件の報道件数

(朝日新聞の記事検索サイト「聞蔵」(<http://dna.asahi.com/>)で「少年犯罪」のヒット件数を調べたもの、ただし朝夕刊、本紙地域紙を含めた数)

少年による殺人事件件数(犯罪白書平成17年度版より)

結構迷ってしまわれた方もいるのではないのでしょうか。「そう言えば最近少年犯罪が急激に増加しているってよく聞くし・・・、もしかしたら じゃないかしら・・・?」なんて思われた方もいるかもしれません。

実は、戦後400件くらいあった少年による殺人事件は、急激に減少して、最近では100件前後で安定しています。近年少し増えていたというのは事実ですが、現在ではまた減少傾向にあり、「急激に増加している」と言うほどではないと思います。

それよりも大切なことは、を見て「最近少年犯罪が急激に増加しているって聞くし・・・、確かにこのくらい殺人事件が起きているかもしれないわ・・・」と覚えてしまうことです。少年犯罪について専門知識のない一般の人

ならなおさらです。

なぜそう思ってしまうのでしょうか？

それは、私たちが情報を得る手段をマスメディアに依存しているからです。

マスメディアで連日のように少年犯罪が報道されれば、私たちは感覚として毎日のように凶悪な少年犯罪が起きていると感じてしまうでしょう。でも、実際には一部の事件を大々的に報じているだけで、全体として見たときにそこまで大きく変わっているわけではないという事実があります。そのような客観的な事実に接する機会というのは、専門家でもないかぎり、なかなかありません。

実際、の数字は私たちの感覚に非常に合っているのではないかと思います。

ある冬の晴れた日、天気予報を見ると気温は高いというので薄着で外に出ると、北風が吹いていて寒い。このときに体で感じる気温を「体感気温」などと言ったりしますね。これにならって、このような現象を「体感治安」と名付けてみます。

しかし、気温の問題であれば、体感気温が低くなったらコートでも着て北風をしのぎ、北風がおさまって体感気温が実際の気温と同じになればコートを脱いでもとの薄着に戻れば良いでしょう。

でも、「体感治安」の場合はそうはいきません。マスコミの報道で実際とは異なる「体感治安」が形成され、それに基づいて国民世論が形成され、そして実際に少年法が改正されていくとしたら・・・それは望ましいこととは到底言えません。それは刑事政策的にも良い方向を向いているとは言えませんし、何よりその新しい制度で裁かれていく少年たちの人権はどうなるのでしょうか。

今回は少年犯罪をテーマとしてこのようなコラムを書きましたが、この問題は決して少年犯罪に限られるものではないと思います。マスコミの報道を鵜呑みにせず、いかに正しい認識に基づいて自分の意見を形成できるか・・・、その前提なくしては日本の民主主義も危ういと言わざるを得ないでしょう。

(わかことワカルの少年法担当)